

# eラーニング教材の授業活用による英語実践的コミュニケーション能力の育成

岡山県立津山高等学校 教諭 藤代 佳予子

## 概要

本研究は、ネットワークを介して「いつでも・どこでも」動画や音声进行学习に利用できるeラーニングを活用した授業実践を通して、eラーニング教材を活用した効果的な指導方法を探り、英語実践的コミュニケーション能力を育成することをテーマとしたものである。WBT（Web Based Training）用の教材を生かした「個」に応じた指導と教師による一斉指導を融合させる指導を行い、その学習効果を検証した。

その結果、学習者の特に英語運用能力下位層のリスニング力が有意に向上した。学習者全体が語彙、文法、作文を合わせて総合的に向上した。また、英語の4技能のうち「聞く力」を高めるために他の3つの技能を伸ばす必要があることへの認識の深化が見られた。これは、リスニング力を伸ばす活動が英語実践的コミュニケーション能力の向上につながることを示すものであろう。

## 1 はじめに

近年、「『英語の使える日本人』の育成のための行動計画」が国の施策として出され、より実践的な英語運用をめざした授業への改善や英語教員の資質向上などの取り組みが進行する中、英語で情報を収集、判断、理解して、発信する力は学習活動の基本的な力として育成が求められている。

特に英語教育において聞く力や話す力を育成する指導法の開発及び実践研究が必要とされ、その一方策としてコンピュータや情報通信ネットワークを利用して学習するeラーニングの授業活用が注目されている。岡山県情報教育センターの研究成果によると、中・高等学校におけるeラーニングを活用した

授業実践により学力向上やコミュニケーション観の深化などの学習効果が報告されている。

これらの先行研究を踏まえ、本研究は、通常の授業を通して英語の実践的コミュニケーション能力を育成することを目標として、音声面を重視したeラーニング教材の活用と授業における一連の活動形態をパターン化して継続的に授業実践を行うことで、情報活用の実践力を育成するとともに、eラーニング教材を活用した効果的な指導方法について考えるものである。

## 2 研究の目的

eラーニングの一手法であるWBT（Web Based Training）用の教材として開発された、岡山県情報教育センター制作による教材を授業活用して、英語の聞く力や話す力の育成への効果や意識の変容を検証し、WBTの利点の1つである個人の進捗に応じた指導と教師による一斉指導の在り方を検討する。

## 3 研究の背景

### 3.1 eラーニングとWBT

一般にeラーニングは次のように定義されている。「eラーニングとは、情報技術によるコミュニケーション・ネットワーク等を使った主体的な学習である。学習者が自らの意志で参加し、学習を進めていく上での適切なインストラクションが適時与えられる。」（全国教育研究所連盟、2004）

WBTはeラーニングの学習形態の1つであり、学習者はネットワークを活用してサーバにアクセスし、

Web コンテンツを見ながら学習する。学習者は原則的にいつでもどこでも学習ができるのが特徴である。

本研究では、岡山県情報教育センターの HP から公開されている WBT 教材を活用し、授業実践を行った。

### 3.2 WBT による学習の長所

WBT による学習は、「時間や場所の制約がない」、「マルチメディア教材の工夫により、理解が進みやすい」、「自分のペースで個別学習ができる」、「繰り返し学習でき、復習的な学習が可能である」という長所がある（全国教育研究所連盟, 2004）。これは、生徒の個人差に応じた学習を可能にするという点で大きな利点である。

### 3.3 一斉指導による学習の長所

WBT は自分のペースでいつでもどこでも学習できるシステムであるが、教える人と学ぶ人のコミュニケーションがリアルタイムでできないというのが短所の1つである。学習を続けることは学習者がモチベーションを維持できるかどうかにかかっている。

それに対して、教師と学習者がリアルタイムで扱われる学習形態である一斉指導には、「時間を拘束される分、学習のモチベーションが高い」、「学習者に共通の理解が得られる」という長所がある。

学習内容によっては WBT が適するか一斉指導が適するかに配慮して、一斉指導の長所を生かした授業展開をすることは、WBT による短所を補うことになり、より大きな効果が期待される。そこで注目されているのが、e ラーニングと集合学習を組み合わせた「ブレンディング学習」（全国教育研究所連盟, 2004）である。

### 3.4 先行研究と活用する理論

岡山県教育委員会が平成16年度から進めている「ミレニアム授業推進プロジェクト」に係る岡山県情報教育センターにおける研究「自己表現力を育成する e-Learning 教材の開発と指導法の研究」（藤代, 2004）によると、高等学校外国語（英語）科で WBT 教材を活用した「ブレンディング学習」を取り入れた授業実践を継続的に行うことにより、① 英語運用能力下位層のリスニング力向上、② 英語での発話意欲の高揚、③ コミュニケーションのとらえ方の深化、双方向化、などの学習効果が認められると報

告されている。

生徒の個別学習に単なる WBT 教材を活用するのではなく、授業の中で英語科教員が一斉指導により学習のポイントを説明したり、WBT を活用中に個別指導で生徒にかかわったりすることで、学習意欲が維持され、学習効果に結び付いたものと考えられる。

この先行研究を踏まえ、本研究においても授業の中で WBT 教材を活用した「ブレンディング学習」を行い、活動の組み合わせ方のパターン化や指導手順に新たな工夫を加えることで、聞く力、話す力の育成に役立つ効果的な指導法を開発、提案する。

## 4 研究の計画

### 4.1 研究の方針

使用する WBT 教材は会話の場面を扱ったビデオクリップや音声を多く含んでいるため、それをもとにリスニング演習や対話演習を行い、「聞く」、「話す」といった音声面の能力を育成する取り組みを行う。また、英語 I の授業で実践するため、教科書の学習内容と関連付けて e ラーニングを活用する方法を工夫する。

### 4.2 研究の流れ

研究の流れは次のとおりである。

■ 表 1：研究の流れ

|       |                                                                |
|-------|----------------------------------------------------------------|
| 事前調査  | ① 英語運用能力（読む・書く・聞く）を測るテスト<br>② 英語学習についてのアンケート                   |
| 授業実践  | 期間：平成17年11月～平成18年3月（7単位時間）<br>対象：岡山県立津山高等学校<br>平成17年度理数科1年生40名 |
| 事後調査  | ① 英語運用能力（読む・書く・聞く）を測るテスト<br>② 英語学習についてのアンケート                   |
| 効果の検証 | 事前・事後調査を比較検討し、効果を検証                                            |

## 5 研究の実際

### 5.1 事前調査・事後調査

事前調査は平成17年10月末、事後調査は平成18年3月に、それぞれ、WBT 実施群の岡山県立津山高  
等学校理数科生徒40名と WBT 未実施群の普通科生  
徒40名を対象に行った。

英語運用能力を測るテストには、日本英語検定協  
会の協力の下、英検準2級平成16年度第2回試験を  
使用した。本校の授業時間（45分）に合わせ筆記試  
験（20点満点）を20分で行うため、語彙・文法、会  
話文、英作文、読解の4領域の力が測れるよう留意  
して問題を抜粋して使用し、リスニングテスト（30  
点満点）は全問を25分で実施した。

英語学習についてのアンケートは、コンピュータ  
を使う英語学習のとりえ方や発話意欲の変容を問う  
内容とした。

事前調査と事後調査は、テスト問題とアンケート  
共に同じものを使用して実施した。

### 5.2 使用した WBT 教材

平成16年度岡山県情報教育センター制作の英語学  
習用 e ラーニング教材（[http://www2.jyose.pref.  
okayama.jp/wbt2004/](http://www2.jyose.pref.okayama.jp/wbt2004/)）を使用した。この教材は10  
シーンの会話場面を扱った動画や音声があり、それ  
ぞれに複数の対話練習の機会が用意されている。また、  
枝分かれ式聴解力テストの部分では個人の進度  
に応じた学習ができる利点がある。

### 5.3 授業実践

本校第1学年は、普通科7クラス、理数科1クラ  
スから成る。本研究では、理数科1クラス40名を  
WBT 実施群、普通科1クラス40名を WBT 未実施群  
として英語 I で授業実践を行った。WBT 未実施群  
に対して WBT 実施群と同じ学習項目を同じ授業時  
間数で扱い、両群間に差がでないように配慮した。  
また、リスニングについてはテープレコーダーを用  
いて一律に指導する形態をとった。

#### 5.3.1 授業の展開

WBT 実施群に対して WBT 教材と通常の教科書の  
学習とを合わせることができるよう学習活動を5  
つにパターン化し授業を行った。その際、WBT 教材

のシーンの中から教科書内容や学習する語彙と関係  
のあるものを選んで組み合わせた。

■ 表2：学習パターン1：WBT 学習

| 学習内容                          | 学習形態 | ICT 活用 |
|-------------------------------|------|--------|
| Listening Comprehension Check |      |        |
| Part 1 写真描写問題                 | 個別   | WBT    |
| Part 2 応答適文選択問題               | 個別   | WBT    |
| Listen & Act                  |      |        |
| Step 1 リスニング問題                | 個別   | WBT    |
| Review 音声で復習                  | 個別   | WBT    |
| Step 2 動画で状況把握                | 個別   | WBT    |
| Step 3 役割読み                   | 個別   | WBT    |
| Step 4 ペアで対話練習                | ペア   | なし     |

（注）ICT: Information and Communication Technology

■ 表3：学習パターン2：インターネット学習と WBT

| 学習内容           | 学習形態 | ICT 活用   |
|----------------|------|----------|
| 教科書にリンクした調べ学習  | 個別   | Internet |
| Listen & Act   |      |          |
| Step 1 リスニング問題 | 個別   | WBT      |
| Review 音声で復習   | 個別   | WBT      |
| Step 2 動画で状況把握 | 個別   | WBT      |
| Step 3 役割読み    | 個別   | WBT      |

■ 表4：学習パターン3：WBT と一斉指導

| 学習内容                          | 学習形態 | ICT 活用   |
|-------------------------------|------|----------|
| Listening Comprehension Check |      |          |
| Part 1 写真描写問題                 | 個別   | WBT      |
| Part 2 応答適文選択問題               | 個別   | WBT      |
| Listen & Act                  |      |          |
| Step 1 リスニング問題                | 個別   | WBT      |
| Step 2 動画で状況把握                | 個別   | WBT      |
| ディクテーション                      | 一斉   | なし       |
| Step 3 役割読み                   | 個別   | WBT      |
| Step 4 対話練習                   | ペア   | なし       |
| 教科書の音読と理解                     | 一斉   | なし       |
| 教科書にリンクした調べ学習                 | 個別   | Internet |

■ 表5：学習パターン4：リスニングと発表活動

| 学習内容                         | 学習形態 | ICT 活用     |
|------------------------------|------|------------|
| <b>ALT による教科書テキストビデオクリップ</b> |      |            |
| リスニング問題                      | 個別   | Video Clip |
|                              | 一斉   | なし         |
| 単語の発音クリニック                   | 個別   | Video Clip |
|                              | 一斉   | なし         |
| <b>本文の音読</b>                 |      |            |
| 自分で選んだ段落を音読                  | 個別   | なし         |
| ペアで役割読み                      | ペア   | なし         |
| 自分の音読をビデオ録画                  | 個別   | Video Clip |

■ 表6：学習パターン5：WBT と発表活動

| 学習内容                                 | 学習形態 | ICT 活用 |
|--------------------------------------|------|--------|
| <b>Listening Comprehension Check</b> |      |        |
| Part 1 写真描写問題                        | 個別   | WBT    |
| Part 2 応答適文選択問題                      | 個別   | WBT    |
| <b>Listen &amp; Act</b>              |      |        |
| Step 1 ディクテーション                      | 個別   | WBT    |
| Step 2 対話練習                          | 個別   | WBT    |
| Step 3 ペアで対話練習                       | ペア   | なし     |
| <b>Write &amp; Act</b>               |      |        |
| オリジナル会話作成                            | ペア   | なし     |
| 対話練習                                 | ペア   | なし     |
| クラスで発表                               | 一斉   | なし     |

### 5.3.2 指導展開の工夫

授業展開でそれぞれ工夫した点は、右段の表7のとおりである。

### 5.3.3 指導上の工夫

各授業で使用するワークシートを作成した。それには生徒が各活動の目標や自己評価を記入できるようにした。これにより生徒は一人一人が各自の活動目標に向かって自主的に取り組み、自ら振り返ることによって学習内容の定着や次の学習目標を立てることができる。

また、学習パターン4では各自が音読している様子をビデオで録画して振り返らせた。これにより、モデルとなるビデオクリップとの発音や口の開き方の違いを明確に認識することが可能である。

■ 表7：指導展開の工夫

|                |                                                                           |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------|
| <b>学習パターン1</b> | WBT に慣れるために教材の手順に沿って学習を進める。(中心になる活動：リスニング・スピーキング)                         |
| <b>学習パターン2</b> | 教科書の題材に関連した情報を得ることで興味・関心を高め、自主的な学習を促す。(リーディング・リスニング)                      |
| <b>学習パターン3</b> | WBT をもとに一斉指導で学習のポイントを説明して共通理解を図る。個別学習と全体での指導を合わせて行う。(リスニング・スピーキング・リーディング) |
| <b>学習パターン4</b> | ALT の表情・口元などに注意して映像を見ながらリスニングした後、各自の音読をビデオ録画する。(リスニング・スピーキング)             |
| <b>学習パターン5</b> | WBT の対話練習の後、ペアごとに状況を設定してオリジナル会話を作成し、クラスで発表する。(リスニング・スピーキング・ライティング)        |

### 5.3.4 活動の様子

WBT 教材に対する生徒の反応はよく、興味を持って活動していた。間違えても何度も繰り返し学習できる構成になっているので、わかるまで個人に応じた練習ができた。また、リスニングの力をつけなければならないと実感できたことから、回を重ねるごとに集中して聞き取れるようになった。対話練習では、WBT 教材の登場人物を相手にして理解した後、すぐペアでの練習に移り、楽しんで対話していた。

自分で調べてまとめることや手作りのビデオクリップの利用などの活動を組み合わせたことで、教科書の内容理解が進んだ。発表する場面では、お互いの発表から刺激を受け、人にわかるように伝えることの難しさに気付いていった。

## 6 実践結果・分析・考察

実践の結果、事前・事後のテスト及びアンケートの結果を分析し、考察した。

### 6.1 英語運用能力の変容

WBT 実施群と未実施群を対象に、英検準2級テストを使用して、語彙・文法、会話文、英作文、読解の問題を抜粋した筆記試験とリスニングテストと

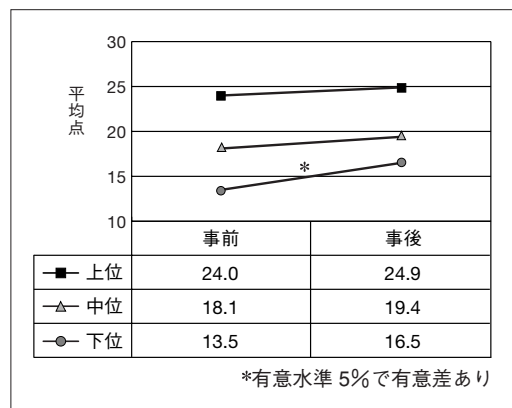
を実施した。事前・事後テストの得点を偏差値に換算し比較した。その結果、WBT 実施群、未実施群、両群共にリスニング力が有意に上昇した。また、WBT 実施群は筆記試験でも有意な上昇が見られた。

### 6.1.1 上位・中位・下位層別リスニング力の向上

事前テストの筆記試験とリスニングテストを合わせた総合得点の偏差値45未満を下位層、45以上55未満を中位層、55以上を上位層として、WBT 実施群のそれぞれの層でのリスニング力の変容を検証した。

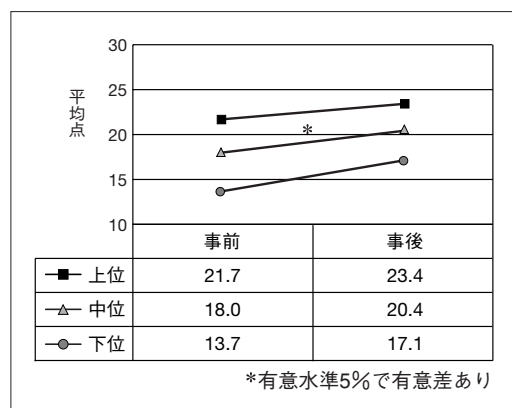
その結果、下位層が有意水準5%で有意に上昇した。

▼ 図1：WBT 実施群のリスニング力の向上



次に、WBT 未実施群を同様に比較すると、中位層が有意水準5%で有意に上昇した。

▼ 図2：WBT 未実施群のリスニング力の向上



実施群とは異なり、未実施群で有意な差が見られたのは中位層であるが、それは通常の一斉指導型の授業で中心となる指導水準に適合する層であるからかもしれない。

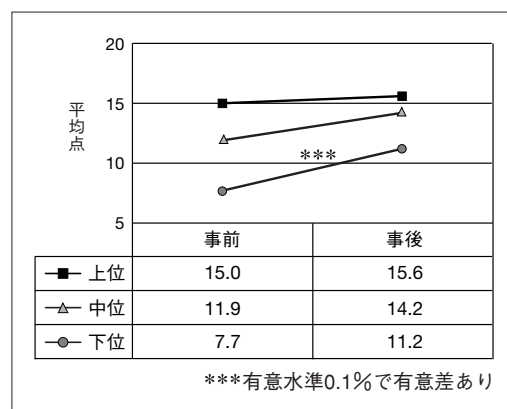
下位層について考えれば、通常のテープレコーダーによる音声一律提示だけではリスニングに関する学習が定着しにくい状況があるとも推測される。未実施群に WBT を実施して変容を検証することが今後の研究の課題となろう。

### 6.1.2 読解力の向上

筆記試験を見ると、筆記試験で測られた読解力について、WBT 実施群は下位層が有意水準0.1%で有意に上昇した。未実施群については有意な差は見られなかった。

音声指導を重視した授業が主になされたにもかかわらず、語彙・文法、作文を含む読解力が有意に上昇したことについて考察する。

▼ 図3：WBT 実施群の読解力の向上



下位層の生徒にとって WBT 教材は自分のペースで繰り返し聞き取りの練習ができることが大きな利点である。また、対話場面にはキャプションがついていて登場人物の発話が文字で確認できるので、聞こえた音声が明確に理解できる。聞き取れてわかるという自信が感じられるようになったことは、他の活動の推進力になったことがうかがえる。

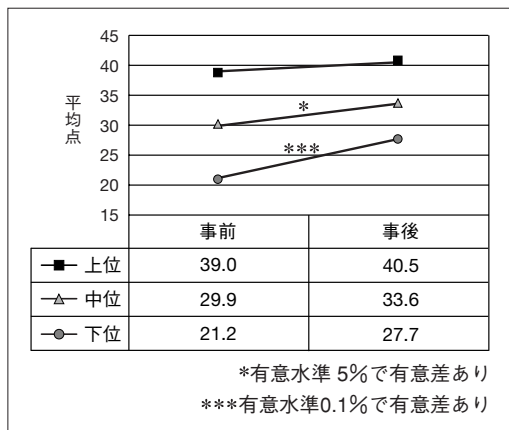
学習パターン3、4、5はペアワークが活動の主な部分を占めるので、生徒は友達との協同学習で会話を楽しみながら、お互いのパフォーマンスに刺激を受けることによって前向きな学習の手助けになっていた。



### 6.1.3 総合的な英語運用能力の向上

したがって、総合得点で見ると WBT 実施群は中位層は有意水準 5% で、下位層は有意水準 0.1% で有意に上昇した。WBT 未実施群については中位層において有意な上昇が見られた。

▼ 図 4：WBT 実施群の英語運用能力の向上



## 6.2 英語学習に対する意識の変容

事前・事後のアンケートは、英語学習やコンピュータを使った英語学習についての問いに、主として与えられた 5 段階の数字を選んで回答する形式である。

「ある・思う」を 5, 「ややある・やや思う」を 4, 「どちらでもない」を 3, 「ややない・やや思わない」を 2, 「ない・思わない」を 1 としてその合計数値の変化を比較してみたところ、主に WBT 実施群で増加したものは次のとおりである。

- ・英語の音声だけを聞いて状況を思い浮かべることができる。
- ・コンピュータを使った英語の授業で、英語の会話を聞いて内容が聞き取れるようになると思う。
- ・人とコミュニケーションをとることが好きだ。
- ・友達と互いの発音の間違っているところを教え合いたいと思う。
- ・海外の出来事や文化に関心がある。

### 6.2.1 4 技能に対する意識の変容

英語の 4 技能に対する意識についての問いに対して次のような結果が得られた。WBT 実施群、未実施

群それぞれにおける割合で表す。

問 1：英語を「読むこと」、「書くこと」、「聞くこと」、「話すこと」のうち、自分としてはどの力を伸ばす必要があると感じていますか。(表 8)

■ 表 8：伸ばしたい力

| 4 技能 | WBT 実施群 |       | WBT 未実施群 |       |
|------|---------|-------|----------|-------|
|      | 事前      | 事後    | 事前       | 事後    |
| 読む力  | 12.8%   | 23.1% | 5.4%     | 8.1%  |
| 書く力  | 48.7%   | 51.3% | 32.4%    | 54.1% |
| 聞く力  | 25.6%   | 10.3% | 16.2%    | 8.1%  |
| 話す力  | 12.8%   | 15.4% | 46.0%    | 29.7% |

問 2：英語を「読むこと」、「書くこと」、「聞くこと」、「話すこと」のうち、自分としては現在十分足りていると思うのはどの力ですか。(表 9)

■ 表 9：足りていると思う力

| 4 技能 | WBT 実施群 |       | WBT 未実施群 |       |
|------|---------|-------|----------|-------|
|      | 事前      | 事後    | 事前       | 事後    |
| 読む力  | 35.0%   | 37.5% | 48.7%    | 40.5% |
| 書く力  | 7.5%    | 17.5% | 13.5%    | 24.3% |
| 聞く力  | 25.0%   | 22.5% | 18.9%    | 18.9% |
| 話す力  | 10.0%   | 2.5%  | 5.4%     | 2.7%  |
| なし   | 22.5%   | 20.0% | 13.5%    | 13.5% |

以上 2 つの結果から、WBT 実施群は実践の前後とも特に書く力を伸ばす必要を感じるのは変わらないが、聞く力の不足感は低くなり、読む力や話す力を伸ばさなければならないと感じるようになったことがわかる。

また、伸ばしたい力と足りている力との組み合わせで見ると、事前で多かったのは「聞く力不足だが読める」と「書く力不足だが聞ける」だったが、事後では「書く力不足だが読める」が最も多くなった。

次に、伸ばしたい力について、WBT 実施群の上位・中位・下位層別に比較したのが表 10 である。

■ 表 10：層別伸ばしたい力 (WBT 実施群)

|    | 読む力 |     | 書く力 |     | 聞く力 |     | 話す力 |     |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|    | 前   | 後   | 前   | 後   | 前   | 後   | 前   | 後   |
| 上位 | 0%  | 0%  | 50% | 70% | 20% | 10% | 30% | 20% |
| 中位 | 20% | 33% | 47% | 33% | 20% | 7%  | 7%  | 27% |
| 下位 | 9%  | 27% | 45% | 55% | 36% | 9%  | 9%  | 0%  |

中位層は「書く力」が減り「読む力」と「話す力」が増え、下位層は「聞く力」が減り「読む力」、「書く力」が増えた。

また、足りている力については、下位層で「読む力」が減り「聞く力」が増えた。

6.2.2 リスニング力のとらえ方の変容

次のアンケートの問いに対する回答の結果を示す。

問3：英語が聞き取れるようになるにはどれが一番大切だと思いますか。番号で答えてください。  
(表11)

- (選択肢) 1. 単語の意味を覚える  
2. 文法を正しく理解する  
3. 英語の対話をたくさん聞く  
4. 速い英語に慣れる  
5. 英語でたくさん話す  
6. 背景知識を持つ

表11：リスニングに大切な力

| 選択肢 | WBT 実施群 |       | WBT 未実施群 |       |
|-----|---------|-------|----------|-------|
|     | 事前      | 事後    | 事前       | 事後    |
| 1   | 25.0%   | 32.5% | 27.5%    | 27.5% |
| 2   | 12.5%   | 5.0%  | 7.5%     | 7.5%  |
| 3   | 25.0%   | 22.5% | 32.5%    | 32.5% |
| 4   | 27.5%   | 17.5% | 12.5%    | 15.0% |
| 5   | 7.5%    | 17.5% | 17.5%    | 7.5%  |
| 6   | 0%      | 5.0%  | 0%       | 0%    |
| 他/無 | 0%      | 0%    | 2.5%     | 10.0% |

この結果から、WBT 実施群はリスニング力をつけるには文法より語彙力の不足を実感したことがわかる。また、注目すべきはリスニング力を伸ばすには「聞く」活動よりも「英語をたくさん話す」、「背景知識を持つ」ことの重要性を認識している点である。

それに対して、未実施群にほとんど変化は見られない。逆に「聞く」の割合が多くなっている。ここに見られる差は WBT の実施の有無が影響していると考えられる。

6.2.3 背景知識の重要性への気付き

リスニング力のとらえ方の変容についてもう少し細かく上位・中位・下位層別に考察したところ、上位層では聞き取れるようになるには「単語を覚える」と「英語をたくさん聞く」を重視する回答が多い。

下位層も同様に、「単語・文法」と「聞く」活動を重視する傾向は変わらない。

しかし、下位層にも見られる傾向であるが、中位層において最も特徴的に見られた変容について考察する。

事前・事後アンケートで、聞き取れるようになるのに一番大切だと思うものとあわせて、2番目に大切だと思うものは何かを尋ねた。

(前出の問3と同じ選択肢)

1. 単語の意味を覚える  
2. 文法を正しく理解する  
3. 英語の対話をたくさん聞く  
4. 速い英語に慣れる  
5. 英語でたくさん話す  
6. 背景知識を持つ

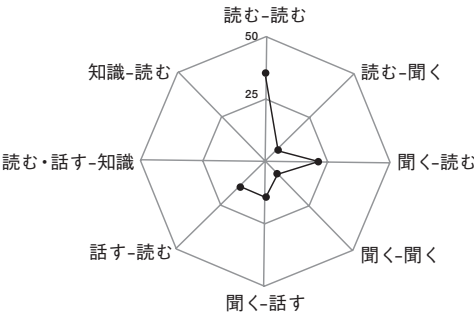
これら選択肢1～6が表す活動を4技能を中心に結び付けて次のように分類し、一番大切だと思うものと2番目に大切だと思うものの組み合わせが事前と事後でどう変わったかを見た(表12)。

表12：アンケートの選択肢と4技能

|     | 読む   | 聞く   | 話す | 知識 |
|-----|------|------|----|----|
| 選択肢 | 1, 2 | 3, 4 | 5  | 6  |

次の図5にある、「読む-読む」とはリスニングにとって一番大切だと思う力が「読む力」で2番目に大切な力も「読む力」であることを示す。つまり、選択肢の1と2または2と1の組み合わせということである。それぞれの回答数を各層の人数に占める割合で比較した。

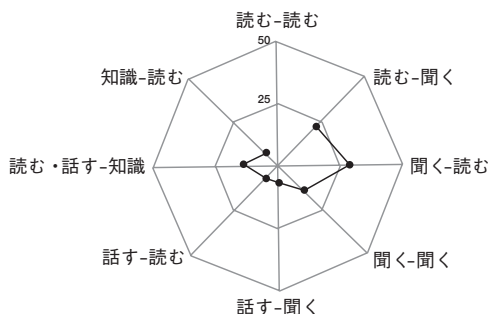
図5：中位層に見るリスニングに大切な力（事前）



事前アンケートでは単語や文法が重視されていて、背景知識への関心は全くない。聞き取るためには単語をたくさん覚えることと聞く活動をたくさんするべきだと考えている。

中位層の事後アンケートの結果は次のとおりである。

▼ 図6：中位層に見るリスニングに大切な力（事後）



ここでは、「読む-読む」の組み合わせはなくなった代わりに、背景知識を持つという視点が新しく意識された。

WBT 教材で対話の生じる状況が理解できたり、ICT 活用で学習内容の理解が進んだことが、背景知識を重視する態度に結び付いたものと考えられる。

しかしながら、中位層にリスニングテストで有意な上昇が見られなかったことから、ここに見られる変容とリスニング力向上に及ぼした影響について今後検討する必要がある。

### 6.3 教師から見た生徒の変容

生徒は、初めは正確に聞き取ることを目標にしていたが、教材で扱われている対話が行われている状況を理解しようとする態度に進み、リズム・アクセント・イントネーションに注意してスムーズに発音することができるようになった。また、相手に伝わるように気を付けて読むことや、テキストの内容を理解して伝えようとするなど、自分の発話が適切に伝わるかどうかということを意識できるようになった。

リスニングによって得られた語彙や WBT 教材で扱われている対話の場面を理解したことが対話練習や発表に生かされていることがうかがえた。

インターネットを利用して未知の情報が収集でき新しい発見を通して生徒の学習意欲がさらに高まった。

## 7 成果と課題

### 7.1 成果

WBT 教材を活用した授業実践により得られた成果と思われる点は次のとおりである。

- ・英語運用能力下位層のリスニング力の向上
- ・リスニング力の向上が英語学習の意欲向上へ連携
- ・コミュニケーションへの意識の高揚
- ・コミュニケーション活動の背景への興味の深化

リスニング力を伸ばす学習から、生徒は英語運用能力を他角度からとらえるようになった。4 技能をそれぞれ伸ばすために各技能を個々に訓練すればよいのではなく、すべての技能が関連し合い、学習に相乗効果を及ぼすことを再認識した。

事前・事後アンケートによると、英語のコミュニケーションにおいて自分が一番大切だと思うことは何かを尋ねたところ、事前では単語や文法を理解することが主だったのに対して、事後は積極的に話すこと、恥ずかしがらないことなど積極性に触れるものがほとんどだった。コミュニケーションへの積極的な態度を養ったことも成果の 1 つと言える。

### 7.2 今後の課題

WBT 未実施群は英語運用能力中位層で有意な上昇があったことについては検証するに至っていない。より多くの実践が行われなければならない。

今後、WBT をはじめとして eラーニングが広く利用されることを期待するには、WBT だけで授業はできないからと敬遠されるのではないかと危惧もある。そこで、通常の教科書を使った授業との融合を意識して、あえてビデオクリップも含め多様な ICT 活用を授業における活動として取り入れ、組み合わせた。そのため、より多くの時間を WBT にかけた上での学習効果や成果を検証することが必要と思われる。

## 8 おわりに

生徒の英語運用能力を高めるための一方策として eラーニングを活用した授業実践を行ったが、生徒の興味を高め学習成果が上がるのがわかった。だ



が、教材そのものに頼るのではなく、教える生徒や達成すべき目標を考えた上で、教材の最も効果的な使い方を工夫することが必要であろう。それはほかでもなく授業をする教員自身によるところが大きいことは言うまでもない。今後も多様な活動を組み合わせながら、よりよい指導法を求め続けていきたい。

#### 参考文献（＊は引用文献）

- 近江誠.(1996).「英語コミュニケーションの理論と実際」.  
東京：研究社出版.
- ＊藤代昇丈.(2004).「自己表現力を育成する e-Learning  
教材の開発と指導法の研究」. 岡山県情報教育センタ  
ー研究紀要.
- 藤代昇丈.(2006).「情報活用能力を高める e ラーニン  
グ教材の開発と指導法の研究～各発達段階における  
『個』に応じた指導を通して～」. 岡山県情報教育セン  
ター研究紀要.
- 藤代昇丈・平松茂・近藤勲.(2005).「英語の WBT リ

#### 謝 辞

最後に、本研究で共に経験を分かち合った岡山県立津山高等学校理数科1年生の生徒の皆さんと御協力いただいた皆様に感謝しますとともに、授業活用に適する WBT 教材を制作、公開された岡山県情報教育センターの関係者の皆様に深く感謝と敬意を表します。

スニング教材の開発とそれを採用した指導法に関する一検討」. 日本教育工学会論文誌. 29(Suppl.).

Teeler, D., 渡辺雅仁(訳).(2001).「英語の授業に活かすインターネット」. 東京：ピアソン・エデュケーション.

Warschauer, M., Shetzer, H., Meloni, C., 古谷千里他(訳).(2001).「インターネット時代の英語教育」. 東京：ピアソン・エデュケーション.

＊全国教育研究所連盟(編).(2004).「学校を開く e ラーニング」. 東京：ぎょうせい.